

第7回南九州水産海洋研究集会

サバ類資源について考える～今後の資源動向を見越した有効利用の視点から～

日時：2019年10月17日（木） 13：15～17：00

場所：宮崎県庁付属棟201号（宮崎市橘通東2丁目10番1号）

共催：一般社団法人水産海洋学会，宮崎県水産試験場，鹿児島県水産技術開発センター，鹿児島大学水産学部

コンピナー：渡慶次 力・堀江ひかり（宮崎水試），福元亨介（鹿児島水技セ）・宍道弘敏（鹿児島県庁），久米 元・小針 統・中村啓彦（鹿大水産学部）

挨拶：山下 洋（一般社団法人水産海洋学会会長） 13：15～13：20

田中宏明（宮崎県水産試験場長） 13：20～13：25

趣旨説明：渡慶次 力（宮崎水試） 13：25～13：35

基調講演

座長：渡慶次 力（宮崎水試）

（1）サバ類太平洋系群と対馬暖流系群の生態と資源動向

由上龍嗣（水産機構中央水研） 13：35～14：05

（2）日本及び世界市場におけるサバ類の取扱と利用

金子貴臣（水産庁） 14：05～14：35

話題提供

座長：由上龍嗣（水産機構中央水研）

（1）宮崎県におけるサバ類の漁獲動向 堀江 ひかり（宮崎水試） 14：35～14：55

（2）鹿児島県におけるサバ類の漁獲動向 福元亨介（鹿児島水技セ） 14：55～15：15

（休憩） 15：15～15：30

座長：金子貴臣（水産機構中央水研）

（3）市場におけるサバ類の流通と利用可能性1 松田豪太（㈱三昇） 15：30～15：50

（4）市場におけるサバ類の流通と利用可能性2 黒木祐幸（㈱宮崎魚市場） 15：50～16：10

（5）サバ類のTAC管理 荒武久道（宮崎県庁） 16：10～16：30

総合討論

座長：渡慶次 力・堀江ひかり（宮崎水試），福元亨介（鹿児島水技セ）・宍道弘敏（鹿児島県庁），久米 元・小針 統・中村啓彦（鹿大水産学部）

16：30

～17：00

**開催趣旨：**サバ類は古来日本人に親しまれ，食用や養殖用あるいは釣り用の餌として利用されるなど，南九州の漁業にとっても重要な水産資源の一つである．南九州で漁獲されるサバ類は，これまでゴマサバが主体であったが，近年はマサバ漁獲量の増加が目立つようになってきた．マサバ太平洋系群の資源水準は，1970年代は高い水準にあったが，その後減少し，2000年代に低水準となったものの，2010年頃から増加している．一方ゴマサバ太平洋系群は2000年代に高水準となったが，2010年頃から減少している．このようにサバ類の資源は，気候変動に対応して数十年規模の大変動を繰返すことが知られている．本種のように海洋環境の影響を受けて大きく変動する多獲性資源を主な漁獲対象とする漁業において，特にゴマサバからマサバへの魚種交替に臨機応変に対応した効率的な操業や加工等の経営戦略が求められるが，南九州におけるサバ類に関する知見は少ない．本研究集会では，サバ類資源の生態，資源状況，海洋環境との関係に関する最新の研究成果と，水産関係者の肌感覚および経営戦略，新漁業法下における資源管理の方向性等について，研究者・水産業関係者・行政関係者間で情報共有・意見交換する．さらに，今後想定される環境変動とそれに伴うサバ類資源の変動及び資源利用のあり方について展望し，今後必要となる研究の方向性について議論する．